



大すきいっぱい土の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和5年2月6日
土井首小学校
文責：校長 江原芳樹
第13号

2月になりました。まだまだ寒い日が続きますが、確実に春が近づいています。日本人はこの一年で最も寒く厳しい2月を「春隣り（はるとなり）」と名付けました。厳しい寒さに目をやるのではなく、その先にある温かさへの期待を大切にしました。

学校のロータリーの梅の木が蕾をほどこき始めました。雪の白とは違う、その白には確かに温かみを感じられます。

1月の積雪の日には、朝から子どもの手を引き、多くの保護者の方が一緒に登校されていました。凍結した道を安全に登校できるためです。しびれるような寒さの中でしたが、一緒に登校する人たちの、温かい笑顔がとても印象的でした。また、学校では子どもたちが元気に外へ出かけ、手を真っ赤にしなが、雪合戦や雪だるまづくりをしていました。

季節を受け入れ、季節を楽しむ「とき」の大切さを改めて実感した一日でした。

子どもたちの登校日数も残すところ30日前後です。1年のゴールであるとともに、次の学年への準備期間です。この1年で「何ができるようになったのか」「もう少し頑張ればできそうなことは何か」を確かめながら進めていきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染とインフルエンザ感染の同時流行に警戒

行動規制のない年末年始、3年ぶりのランタンフェスティバルと、新型コロナウイルス感染症との付き合い方にも変化が見られます。学校でのマスク着用についても、報道等で話題になることがあります。また明確な指針は出されていないので、これまで通り基本的な感染対策を継続していきます。

また、今年度はインフルエンザの感染者数が増加傾向になり、長崎市内でもインフルエンザ感染による学級閉鎖等が見られるようになりました。

どちらも感染対策としては、「手洗い（手指消毒）・うがい・マスク着用」が基本ですが、出席停止等、その対応には違いがあります。

【新型コロナウイルスに感染した場合】

○感染した場合：発症日を0日目として7日間経過し、かつ症状軽快後24時間経過するまで自宅待機

○濃厚接触者の場合：感染者の発症日を0日目として原則5日間の自宅待機

○風邪症状がある場合：本人に風邪症状がある場合は登校を控える。家族に風邪症状がある場合は未診断であれば登校を控える。

【インフルエンザに感染した場合】

○感染した場合：発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで

○家族がインフルエンザに感染した場合：濃厚接触者との対応はない→本人に風邪症状がなければ登校可

医療機関で対応の指示があった場合は、その旨学校にお知らせください。

「スマホ脳」⑤

【若者は眠れなくなっている】

10代は、体内時計の遅延が起こりやすく、夜型になり朝起きるのが辛くなりやすい時期です。一方で、9～10時間という、大人よりもかなり睡眠時間を必要としている時期でもあります。いつの時代も10代は寝不足だったとはいえ、この10年ほどで不眠の問題はかなり悪化するようになりました。その要因はタブレット端末やスマホ、パソコン、テレビなどのスクリーンタイムの増加です。スクリーンタイムが長いほど不眠になるという傾向は、大人よりも子どもの方が強いとの研究結果が出ています。

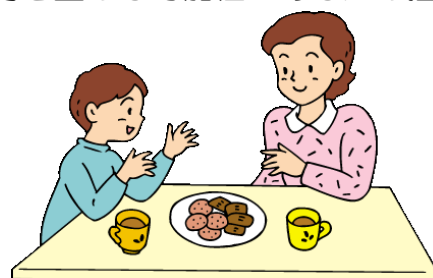
英国の調査では、スクリーンタイムが長い子どもの7割強が「学校の勉強に影響が出ている」と答えています。成長期に必要な睡眠の確保は、情緒の安定にも大きな影響があります。

また、1月30日の長崎新聞には『「スマホ子守」悪影響も～感情を制御できなくなる？』との記事が掲載されました。その一部を紹介します。

親がスマホを与えて子守する頻度と、子どもの自制心や感情の安定度などとの関係を分析すると、スマホ子守の頻度が高い子ほど、感情のコントロールが苦手な「情緒制御不全」の傾向があることが分かった。特に男の子や、もともと気分が変わりやすい子でこうした傾向が強かった。親が落ち着かせようとしてスマホを与えるのが常態化することで、こうした傾向が強められている可能性がある。

スマホ子守に関しては、日本小児科医会も赤ちゃんの発育を歪める可能性があるため控えるようパンフレットを作成しているそうです。

子どもと顔を合わせて話すこと、時に抱きしめ温かみを感じ合うこと、人間本来のコミュニケーションが、改めて求められている気がしています。



《校長室散歩道 R4 版 No. 13》

2年ほど前、新聞の一面に「桃太郎はなぜこの三匹を仲間にしたのか。」との記載がありました。JTの広告です。

一見バラバラの三者をなぜ仲間にしたのか。そこには明確な戦略があったのでは、との見解です。チームに多様性を取り入れ、ある種の化学反応を期待していたのではと。

合うはずのない三者が、心を開き、認め合うことで、個性がより発揮できているというのです。確かに、鬼退治の三者は、それぞれが個性を十二分に発揮し合っています。発揮するのではなく、発揮し合うことでより大きな力となって機能しています。

学校も、多様な子供、先生がいます。同じ目的に向かう時、同じ行動を求めるのではなく、それぞれが違いを認め、もっている力を発揮し合える環境を創っていくことが大切です。

広告の最後には、「違うから人は人を想う」とありました。

今の時代に大切にしたい言葉です。